

2018年度(平成30年度)学校評価自己評価表

福山市立精華中学校区	校番 15	福山市立 精華中 学校
最終更新日	2019年(平成31年)2月12日	

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	創造性	批判的思考・問題解決・意思決定	耐える力	人としての思いやり
- 児童生徒は素直で、ボランティアや地域の行事にも積極的に参加し、社会に貢献している。 - 学校の課題を詳しく示し、学校の取組の様子をさらに伝えてほしい。	- 規範意識は高く、言われたことに対して守ろうとする。 - 新体力テストでは75%以上の児童・生徒が県平均を上回っている。 - 自己表現力が弱く、分かりやすく話したり書いたりすることに課題がある。 - 地域とのかかわりが強く、中学校区に対する愛着は強い。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	生活や社会をよりよくするための課題を見つけ、既習事項を活用して、自分の考えや意見を表現している。	生活や社会をよりよくするため、様々な情報を多面的・多角的な見方で分析し、課題を適切な方法で解決している。	よりよい生活や社会の実現のための目標を達成するために粘り強く工夫しながら取り組んでいる。	よりよい生活や社会の実現のために、他者に配慮しながら、多様性を尊重し協働して学び続けている。
		中学校区として統一した取組等	自分の考えを、話す・書く等で表現させる。	根拠を持って考えを表現させる。	目標を決めて、最後までやり遂げようとさせる。	相手の立場に立って考え行動させる。

III 自 校

ミッション		育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	創造性	批判的思考・問題解決・意思決定	耐える力	人としての思いやり	
校区内での少子・高齢化の進展の中にあつての人材育成 ① 学力の定着と向上を図る。 ② 安心・安全で落ち着いた環境の中、豊かな感性を育てる。 ③ 地域の一員として、地域の行事に積極的に参加する生徒を育てる。		めざす子ども像	1年	日常生活や地域社会をよりよくするために、自分の考えや意見を話したり書いたりしている。	日常生活や地域社会をよりよくするために、様々な情報の中から必要な情報を活かし、解決している	より高い目標を達成するために、粘り強く取り組み、やりぬいている。	相手の立場に立って、誰に対しても思いやりの心を持って接している。
学校教育目標 夢と志を持ち、社会に貢献できる生徒の育成			2・3年	生活や社会をよりよくするための課題を見つけ、既習事項を活用して、自分の考えや意見を話す・書く等で表現している。	生活や社会をよりよくするため、様々な情報を多面的・多角的な見方で分析し、課題を適切な方法で解決している。	よりよい生活や社会の実現のための目標を達成するために粘り強く工夫しながら取り組んでいる。	よりよい生活や社会の実現のために、他者に配慮しながら、多様性を尊重し協働して学び続けている。
現 状							
＜児童生徒＞ ・素直であり、校内・地域でのボランティア活動にも積極的に参加している。 ・体育大会や文化祭等では主体的に活動できるが、日常的なボランティア活動等には自ら進んで考え行動する主体性に課題がある。							
＜授業＞ ・ペア・グループを活用して、生徒どうして「わからない」が言え、学び合いができつつあるが、思考を広げたり深めたりすることがなかなかできない。 ・進んで課題に取り組もうとするが、自分の考えと理由をうまく表現できない。 ・自ら考え学ぶ主体性に課題がある。		研究	教科等 道徳 主題・内容等 自他を大切にし、認め合い高め合う生徒の育成 ～ 人権を尊重する授業づくり、人間関係づくり、環境づくり ～				
		めざす授業の姿	課題に対して、自ら進んで考え、仲間と関わり合い、練り合いながら協働的に課題を解決していく、一人も残らず学ぶ授業				

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 精華中 学校

年 目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	「自ら考え学ぶ授業」づくりの推進	★	新規	課題に対して、自ら進んで考え、仲間と関わり合い、練り合いながら協働的に課題を解決していく、一人も残らず学ぶ授業づくりの推進	①「解決したい」と思わせる課題設定や導入発問の工夫 ㊦ ②目的を明確にした「ペア」「グループ」等の関わり合いの場の設定 ㊦・㊦	①「解決しようとする課題について、『なぜだろう』『やってみたい』と思う。生徒肯定的評価 回答80%以上 ②「授業で、仲間と話し合う等して、自分の考えを深めたり、広げたりしている」生徒肯定的評価 回答80%以上 ③「学び合いで思考を深めさせることができる」教職員肯定的評価 回答100%以上	「課題発見・解決学習」の単元開発に取り組み、協働的な学びを推進した。生徒の肯定的評価は、①71.8%（達成率89.8%）、②80.9%（達成率101%）である。③についての教職員の肯定的評価は75.0%（達成率75.0%）である。	3	3	①市内一斉研修で学んだことを振り返り、授業実践に生かすために、学んだことを交流、研修する。 ②発問強化週間で自分の授業を見直し、改善を図る。また、「問い」について交流、研修する。 ③道徳や教科の課題発見・解決学習の先進的な実践者を講師に招聘し、校内や校区で研修し、自分の授業に取り入れる。	□「教科ごとの授業評価アンケートによる。生徒の肯定的評価、①『「なぜだろう」と疑問が出る課題がある」91%(達成率114%)、『「やってみたい』と思える課題がある」91%(達成率114%) ②88%（達成率110%）。③についての教職員の肯定的評価は88%(達成率88%)である。 ◎「解決したい」と思わせる課題設定や導入発問の工夫ができた。目的を明確にした「ペア」「グループ」等の関わり合いの場の設定ができた。「自ら進んで考える」「一人も残らず学ぶ」については課題がある。	4	4	4	①市内一斉研修で学んだことを振り返り、授業実践に生かした。②思考力強化週間で自分の授業を見直し、改善を図る。③お互いの授業を見せ合う中で、授業について意見を言う場を増やし、授業改善を図る。④引き続き、道徳や教科の課題発見・解決学習の先進的な実践者を講師に招聘し、校内や校区で研修する。
				主体的に読書活動に取組む生徒の育成	①「おすすめ本」紹介文の作成 ②グループ交流の場の設定 ③プレゼンの場の設定	「おすすめ本」を持ち授業・生徒朝会・行事で紹介できる生徒を90%にする。	①「おすすめ本」紹介文を授業で作成した。 ②小中で交流し本校文化祭で交換した。 ③図書委員会が文化祭で発表した。	4	4	主体的に読書をし、相手や目的を意識しながら工夫して本の魅力を発信できるよう自発的で広がりのある読書活動、読書習慣へつなげていく。	□◎①「おすすめ本」紹介文を授業で作成した。 ②小中で交流し本校文化祭で交換した。 ③図書委員会が文化祭で発表した。学校朝会でも本を紹介した。	4	4	4	継続した指導を行い、評価していく中で、読書への意欲を高めていく中で、自発的で広がりのある読書活動、読書習慣につなげる。
1	「自ら考え判断し行動できる」生徒の育成	★	新規	積極的に他者と協力しながら清掃活動を行う生徒の育成	重点箇所以外に掃除できる場所を自ら探して取り組ませる	①「掃除をするときは自ら仕事をみつめています」、②「掃除をするときは協力しています」90%以上	①肯定的評価は81.7%（達成率90.8%）である。 ②肯定的評価は90.9%（達成率：101.4%）	4	4	帰りのHRで、翌日の清掃重点目標を考えさせることを通し、生徒の主体的な活動を推進する。	□①肯定的評価は79%（達成率88%） ②肯定的評価は87%（達成率：97%）である。 ◎重点箇所以外に掃除できる場所を自ら探して取り組ませることができた。	4	4	4	毎日清掃する場所とローテーションで清掃する場所を精査し、清掃活動を通して、協力し合いながら取り組む姿勢を育成していく。
				主体的にボランティア活動が行える生徒の育成	クラスの中で時期に応じて、必要な場所・準備物を決めて取り組む	①「ボランティア活動では自分で考えて判断し行動できた」生徒肯定回答90%以上	①肯定的評価は94.5%である。(達成率：100.4%)である。	4	4	毎月1回以上のボランティア活動を継続する。ボランティア活動の中身を充実させ、生徒が・主体的に活動(場所を自分たちで決め活動の流れを考える)できるよう仕組んでいく。	□①肯定的評価は89%。(達成率：99%) …事前に各学級で活動についてよく話し合いをして参加している。 ◎クラスの中で時期に応じて、必要な場所・準備物を決めて取り組むことができた。また、地域ボランティアへものべ割の生徒が参加した。	4	4	4	ボランティア活動をさらに充実させるため、事前の話し合いや学校外のボランティア活動への参加を生徒会活動として仕組んでいく。

			新規	主体的に環境づくりに取り組む生徒の育成	生徒会委員会・教科係が生徒の学習意欲を喚起する掲示物を作成する。	年間5回、新しい掲示物を作成する。	生徒会委員会や教科で掲示場所を割り振り、活動の様子を掲示しているが、前半平均1回ずつしかできていない。達成率は20%である。	2	2	生徒たちの活動の様子等、掲示物を用い視覚化する。今後も生徒会委員会や教科係が主体的に取り組むことができるよう仕組んでいく。	□◎教科による「良いノートづくり」の見本を展示したり、委員会での取り組みを表やグラフで掲示している。年3回新しい掲示物を作成した。	3	3	3	継続して生徒たちの活動(委員会・教科・生徒会)を通して取り組んでいく。
--	--	--	----	---------------------	----------------------------------	-------------------	--	---	---	---	---	---	---	---	-------------------------------------

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。